

マレーシアから帰国して

ライオンズクラブ国際協会 337-D 地区 2R1Z

種子島ライオンズクラブ

種子島高等学校 1年

西村 恭平

今回僕は、8月3日～8月18日までの約2週間の間マレーシアに行ってきました。

1日目は福岡に1泊をして、2日目の朝、シンガポールへ6時間10分、乗り換えてクアラルンプールへその日の夜到着しました。

片道で4回、飛行機を乗り継ぐというなかなか経験することができないようなことも、経験することができました。

そして、自分のホストファミリーと対面した時、向こうから「はじめまして、よろしく」と、日本語で言われた時に、今まで背負っていた緊張感や不安が一気に抜けました。空港にはホストシスターとボーイフレンドが来ていて、なんと二人ともYEで日本に来たことがあったようなので少し日本語も伝わり、直ぐに安心しました。その日の夜は、市場へと行き、いろいろな露店を見ることができました。

3日目には、KLCCというツインタワーを見に行きました。少し遠くから見ただけで首を上げてしまうほどでした。どれくらいの大きさかと思って聞いて見ると、180階だと言っていました。よく見れば、そのタワーの周りにもたくさんのビルがあり、マレーシアという国に自分が来ているんだなという、実感がそこでもかんじられました。その日の夜には、家にドリアンがあり、食べてみてと言われ、一口食べさせられたりしました。

5日目からは、ライオンズキャンプが2泊3日で始まりました。6人ずつのグループに別れて、ダンスなどの出し物を考えて各グループごとに発表しあったりしていました。日本のダンスをすることになって、AKBを踊った時は、少し恥ずかしい反面、楽しかったです。キャンプを終えて、バスで市街地の広場まで戻ってくると、日本にいると思い込んで、自分の親が迎えに来ている、と思ってしまっていて、ふと目をやると、そうではなかったので、その瞬間だけなぜか気持ちが良くなかったのをよく覚えています。

僕は短期派遣だったので、普通なら一家族だけのホストなはずなのですが、滞在10日目に住所一覧に載っている所とまったく違うところだと気づきました。しかもその家には、本当のホストシスターは居たんですが、他の人は、送ってきた写真に載っている人とまったく違っていて、その時は不思議に思いました。なぜ、こういうことに気づいたかという、この日、ホストシスターが「私の家に行こう」と行ったことでした。車で2時間ほど離れた所にある小さな街でした。どうやら「僕が暇すぎてうんざりしないために首都に住んでいる、

ボーイフレンドの実家にホームステイさせていた」ということだったようです。本当のホストファミリーのところで1泊だけしました。バイクに二人乗りをして、街並みを見て回ったりしたりして、とても見ごたえのある街並みでした。声をかけてくれる人も多く、日本人だと知ると、「こんにちは！」とカタコトながらも、みんなが言ってくれたのが、すごい嬉しかったです。次の日には、ガンディングハイランドにも行きました。日本でいう東京ディズニーランドみたいなところで、ホストブラザーと、水上ボートに乗ったり、お化け屋敷に入ったり、観覧車に乗ったり、まず、ディズニーランドに行ったことがなかったのでとても楽しく感じました。その日の夕方、KLの家に戻る時に、ホストファミリーが泣いていて、田舎から首都に帰っている車の中で、自分も泣いてしまったのは今でも忘れられません。

滞在最後の夜には、KLタワーを見に行きました。400M以上の高さで聞いた時にはとてもビックリしました。高速エレベーターに乗って展望台にまで行く途中に耳が痛くなったこと、展望フロアから見たクアラルンプールの夜景、この光景は一生忘れられません。

そしていよいよ出国の日、空港では名刺交換や記念撮影をするホストファミリー、飛行機の時間までホストファミリーとの別れを惜しむYE生、イベントの企画などをしていた現地のレオクラブの人たち、などでいっぱいでした。さて、いよいよ出国の時間、出国ゲートの前で見送りに来ていたホストファミリーがあれほど泣かないからと言っておきながら、泣きだしたので、「絶対にまた来る」と言って、別れました。不思議なことに、この時僕は、泣くことはありませんでした。「また来ればいいじゃないか」という気持ちで頭の中はいっぱいだったのだと思います。

派遣の案内が最初来たときは不安もありましたが‘言葉’という壁以外においては、非常に充実した生活を送ることができました。僕は、マレーシアという国に行き、さまざまな出会い、さまざまな経験、さまざまな別れ、誰もが簡単に経験できないようなことをさせていただけたと思っています。スポンサークラブ等に活動写真の提出をしたりしましたが、そこに写っているのはほんの一部に過ぎません。この17日間の出来事は、そのすべてを写真にも、言葉にも言い表すことが出来ないほど楽しいものでした。今回このような機会を与えて下さった、ライオンズクラブ、YCE関係者の方々に感謝いたします。今後は、この経験を生かしてレオクラブの活動、学校生活、将来等に役立てていけたらなと思います。

本当にありがとうございました。

2011年9月4日





